

カーボンニュートラルを実現する、夢のエネルギー源。
環境メガトレンド投資の大本命

ワンポイント
One Point

水素

nikko am
Nikko Asset Management

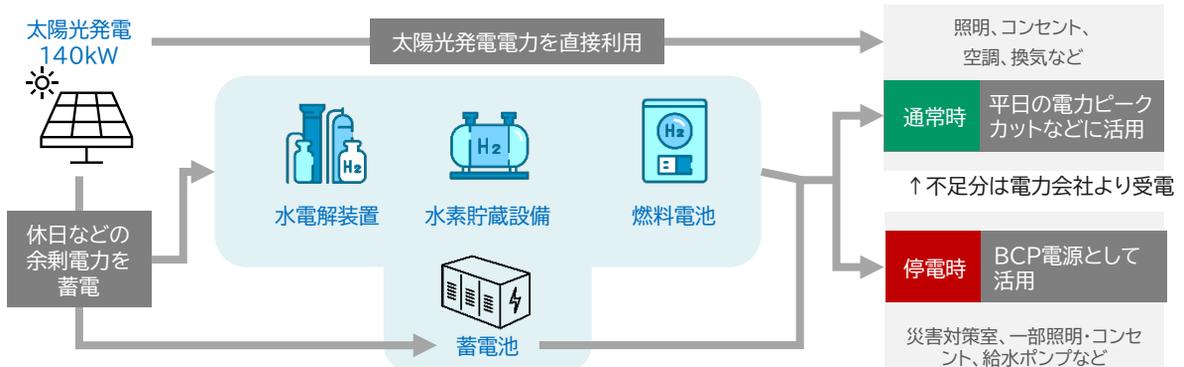
vol.24

北陸地方で進む水素の利活用の動き

北陸地方でも水素の利活用に向けた取り組みが進んでいます。

清水建設の北陸支店(石川県金沢市)は、屋上に設置した出力140キロワットの太陽光発電設備で建物に必要な電力を賄っています。しかし、週末や祝日は電力消費が減るため電力が余ったり、天候が悪く発電量が少ない日は電力が不足したりといった課題もあります。課題解決のため、同社が注目したのが水素。余剰電力で水を電気分解して水素を製造し、電力に換算すれば180世帯が1日に使うエネルギーを貯蔵しています。「金沢は冬が長く曇天も多いため、出力の変動が大きい太陽光発電を有効活用するために不可欠だったのが水素貯蔵の技術」と同社の研究員は話します。エネルギーを水素で貯蔵することで、停電時に72時間は最低限の電力を供給できるなど、災害時のBCP(事業継続計画)にも生かされます。建物を「巨大な電池」に変える潜在力を秘めた水素に熱い視線が注がれています。

■建物付帯型水素エネルギー利用システム「Hydro Q-BiC」



※上記はイメージです

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

○当資料は、日興アセットマネジメントが「水素」についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。○投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ワンポイント One Point 水素

関西電力は2022年度から、福井県敦賀市と連携し原子力発電所で発電した電力で水素をつくる実証実験を始めています。福井県には関電の全原発が立地することから、関電と敦賀市は、原発をCO₂フリーの電源と位置付けて脱炭素のまちづくりへ研究を広げようとしています。原子力発電による電力を用いて水を電気分解して生成する水素は、「パープル水素」と呼ばれ、世界各国で注目を集めています。

■水素のカラー分類は多様化している

グレー水素	化石燃料や天然ガスから生産される水素
ブルー水素	水素を製造する過程で生成されるCO ₂ を回収・地中貯留することで、CO ₂ 排出量実質ゼロを達成して生産される水素
グリーン水素	再生可能エネルギー起源の電力を用いた水の電気分解によって生成される水素
パープル水素	原子力発電による電力を用いた水の電気分解によって生成される水素 原発の燃料の原料となるイエローケーキ(ウラン精鉱)の色が黄色であることから「イエロー水素」と呼ばれることもある

各種報道等より日興アセットマネジメント作成

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

○当資料は、日興アセットマネジメントが「水素」についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。○投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。